◆　わたしの視点　１７　◆

前例踏襲主義の見直し

本年も新年度が始まり、毎朝大きなランドセルを背負った新一年生を従えて元気に集団登校する小学生の姿が、朝から心を明るく和ませてくれるようになり早一ヵ月になる。子供達は少なくなって来たが毎年、春になれば繰り返される大切な光景である。元気に光り輝いている子供達は地域の大切な宝であり、村上市の明日を元気にする大きな可能性を秘めた人財達だ。今年は特に、明るい話題の無い年であり世の中である。そんな中、無邪気に張り切って学校に通う子供達の姿を見ていると、我々大人がもう少し頑張らなくてはと、気力と英気を授けて貰っているような気がして有り難い。村上市も新年度に入り、合併新市として二年生になった。平成二十一年度の当初予算、市政方針を見てみると、一般会計２９０．９億円（前年比２．６％減)、特別会計２２４．３億円（前年比１４．５％減)、併せて５１５．２億円となる財政の規模である。１００年に一度と言われる世界的経済金融危機の深刻化が、当村上市の企業にも影響を及ぼしていると市長の市政方針の中に謳われているが、その割に新規事業も含め政策の目玉が見えない。財政規模が大きくなっただけで、旧市町村時代からの前例踏襲による総花的な地域均衡型の予算編成に終始してしまった気がしてならないのだ。地区、地域間において政治・行政の格差をつけては為らない。しかし、あまりに薄く広くの予算に偏重し、肝心の行政効果が表れず、逆に市民の不満をかう事になるのでないかと心配するのは私ぐらいなのだろうか。合併新村上市において、決して繰り返して欲しくない行政、議会の姿勢が前例踏襲主義で有ると私は思っている。市長は重点施策について村上市総合計画を策定し、計画的な事業の推進を図り市民に公表すると云っているが、それはそれで良い。しかし、その年、その時に必要とされる単年度事業の積み重ねを大切にしないと、町に元気や活気は出て来ない。過去の行政サービス、行政事業を踏襲し市民に押し付けるのでは合併した効果を市民に示す事にはならない。このサービス、この事業の継続が今、必要なのか、今、編成された予算は市民にどんな効果をもたらすのか、行政・議会として毎年、毎回、分析と検証を怠ってはならない。併せて、行政が自ら行なった事業の評価を市民に公表したうえで、行政が取り組んだ事業について市民の評価も経る。そして、次へ進めるべきかどうかの判断をする仕組み作りが今、急がれるのでなかろうか。合併により拡大した財政の規模を生かし、事業の計画、執行には時間を掛けずに進めて頂きたい。また、予算の編成に当たっては前例踏襲主義をあらため、その年、その時に市民が必要とするメリハリのある予算組みを行うよう、市長と市議会議員諸氏に是非一考願いたい。このままでは、１００年に一度の経済危機の克服はおろか、財政破綻の悲劇すら招きかねない。